

平成 24 年 度

高等学校新入生徒の学力に関する研究（英語）

本研究会では、愛知県高等学校英語教育研究会と共同で、毎年県内の参加を希望した高等学校において、その新入生徒を対象に英語学力調査を実施し、結果の集計・分析及び考察を行っている。

この研究は、以下の内容で、本年度分についてまとめたものである。

- (1) 調査の趣旨，調査の実施及び処理方法，調査結果の概要，分析結果の概要
- (2) 統計資料（人数，平均点及び標準偏差，学校平均点の分布状況，設問別正答率）
- (3) 問題別の考察（問題のねらい，問題文，小問別正答率，誤答分析）及び指導上の留意点

<検索用キーワード>

英語 中学校 高等学校 学力調査 中高連携 正答率 誤答分析

研究会委員

愛知県立中村高等学校教諭	武田尚士
愛知県立春日井西高等学校教諭	口ノ町由美子
愛知県立長久手高等学校教諭	杉山一朗
愛知県立東郷高等学校教諭	内山真一
愛知県立岡崎北高等学校教諭	広瀬八重子
愛知県立岩津高等学校教諭	荻窪雄太
愛知県立幸田高等学校教諭	木藤邦雄
愛知県立刈谷高等学校教諭	木下哲
愛知県総合教育センター研究指導主事	米津明彦（主務者）

目次

1 調査の趣旨	56
2 調査の実施及び処理方法	56
3 調査結果の概要	57
4 分析結果の概要	57
5 統計資料	58
6 問題別の考察及び指導上の留意点	60

1 調査の趣旨

愛知県総合教育センターでは、この学力調査を愛知県高等学校英語教育研究会と共同で、昭和29年以来継続して実施し、平成24年度で59回目となる。対象は、参加を希望する愛知県内の国・公・私立高等学校の新入学生徒である。調査結果の集計、分析及び考察を行い、新入学生徒の英語学力の実態と推移を把握するとともに、主に次の資料を得ることを目的としている。

- | |
|--------------------------|
| (1) 中学校と高等学校の連携資料 |
| (2) 高等学校第1学年における指導上の参考資料 |

2 調査の実施及び処理方法

調査の実施は、愛知県高等学校英語教育研究会が担当し、調査問題の作成、報告書（調査結果の統計処理及び考察）の作成は、当センターの研究調査事業「高等学校新入学生徒の学力に関する研究（英語）」において行った。

(1) 実施の時期

平成24年3月下旬から4月上旬までの間に、新入学生徒英語学力調査の参加校において実施した。

(2) 実施状況

課程	年度	平成24年度		平成23年度		平成22年度		平成21年度	
	学科	校数	人数	校数	人数	校数	人数	校数	人数
全 日 制	普通科	104	27,904	107	27,279	107	27,644	114	28,309
	総合学科	5	1,232	6	1,476	5	1,237	5	1,199
	商業科系	6	512	7	552	7	559	9	918
	家庭科系	13	712	12	699	12	698	13	778
	英語科系	3	155	3	152	4	178	3	150
	他の学科	12	790	11	756	11	734	11	661
定時制		0	0	0	0	0	0	0	0
合 計		143	31,305	146	30,914	146	31,050	155	32,015

(注意1) 表中の校数は参加した学科・コース数を表す。

(注意2) 「他の学科」は、農業科、工業科、福祉科、音楽科等である。

(3) 問題作成上の留意事項

本調査は、高等学校新入学生徒を対象とするものであり、高等学校での学習内容を理解するために必要とされる基本的事項の習得状況を調査し、各学校において指導計画を作成する際の参考資料を提供することを目的としている。このために、中学校での既習事項がどの程度定着しているかを、学習内容ごとに調査した。

問題作成に当たっては、次の点に留意した。

- ア 中学校学習指導要領に示された内容の範囲を超えないこと。
- イ 明確な調査目標をもった問題内容であること。
- ウ 言語材料については、現在愛知県内の公立中学校で採用されている教科書（NEW HORIZON English Course 1, 2, 3 東京書籍）の範囲を逸脱しないものとする。

(4) 調査統計事項

学力調査参加校には、次の事項について回答を求めた。

- ア 平均点 イ 得点分布表 ウ 小問ごとの正答者数（各校人数の10%を抽出）
- エ 聞き取りテスト実施状況

3 調査結果の概要

〔表 1〕は、調査対象 31,305 名の個人得点を 10 点幅の得点分布に分けて、全体及び学科別の平均点及び標準偏差をまとめたものである。

個人得点の分布（平均点及び標準偏差）

〔表 1〕

得点域	-90	-80	-70	-60	-50	-40	-30	-20	-10	9-0	合計	平均
全体	2,659	5,665	5,431	4,391	3,532	3,025	2,510	2,389	1,551	152	31,305	61.1
%	8.5	18.1	17.3	14.0	11.3	9.7	8.0	7.6	5.0	0.5	標準偏差	23.2
普通科	2,615	5,519	5,159	4,003	3,065	2,480	1,939	1,783	1,219	122	27,904	63.2
%	9.4	19.8	18.5	14.3	11.0	8.9	6.9	6.4	4.4	0.4	標準偏差	22.7
総合学科	3	43	112	151	198	203	194	211	113	4	1,232	44.9
%	0.2	3.5	9.1	12.3	16.1	16.5	15.7	17.1	9.2	0.3	標準偏差	19.5
商業科系	0	9	28	60	75	106	113	93	26	2	512	43.1
%	0.0	1.8	5.5	11.7	14.6	20.7	22.1	18.2	5.1	0.4	標準偏差	16.8
家庭科系	0	12	41	90	106	114	133	140	69	7	712	41.8
%	0.0	1.7	5.8	12.6	14.9	16.0	18.7	19.7	9.7	1.0	標準偏差	18.4
英語科系	41	47	25	20	10	6	3	2	1	0	155	77.3
%	26.5	30.3	16.1	12.9	6.5	3.9	1.9	1.3	0.6	0.0	標準偏差	17.0
他の学科	0	35	66	67	78	116	128	160	123	17	790	40.3
%	0.0	4.4	8.4	8.5	9.9	14.7	16.2	20.3	15.6	2.2	標準偏差	21.1

4 分析結果の概要（詳細分析は、6「問題別の考察及び指導上の留意点」に掲載）

ここでは、平成 24 年度学力調査結果に見られる新入学生徒の学力の傾向を項目ごとにまとめた。

(1) 語彙力（【1】発音問題 正答率 45.2% 【2】語彙問題 正答率 50.6%）

ア 日本語では「ア」または「オ」と認識されやすい英語の母音の区別（特に[ə:r]と[a:r], [ʌ]と[a]）ができていない。

イ 文脈や対話に応じて適切な語彙を用いて表現することができない。

(2) 文法の知識（【3】文法・語法問題 正答率 79.0% 【4】文法・表現問題 正答率 53.3%）

ア 助動詞を使った疑問文とその答え方が十分理解できていない。

イ 場面に応じて動詞を適切に用いることができない。

(3) 口語表現（【5】口語表現問題 正答率 74.4%）

ア 基本的な語句を使用した会話表現や大まかな対話の展開については理解できている。

イ 会話の流れに応じて適切な表現を用いることができない。

(4) 表現力（【6】整序・作文問題 正答率 55.6%）

会話でよく用いられる表現や代名詞、動詞の基本的な使い方が定着していない。

(5) 読解力（【7】長文読解問題 正答率 63.7%）

登場人物の意図や行動などを、話の展開を考慮に入れて正確に捉えられない。

(6) 聞き取りの力（【8】聞き取り問題 正答率 70.7%）

会話の中で聞き取った内容を整理して理解することができない。

5 統計資料

(1) 人数, 平均点及び標準偏差

[表2] は, 人数, 平均点及び標準偏差の推移をまとめたものである。平成24年度は, 昨年度と比較して, 調査校全体で平均点は0.6点下降し, 標準偏差は0.4ポイント下降している。

人数, 平均点及び標準偏差の推移 [表2]

年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
人数	33,233	31,004	29,980	30,555	30,474	32,015	31,050	30,914	31,305
全体	61.1	65.0	65.6	60.1	54.9	56.6	60.8	61.7	61.1
標準偏差	22.2	23.1	22.7	22.4	23.2	21.4	25.0	23.6	23.2
普通科	62.5	66.8	67.4	62.0	57.1	58.5	63.0	64.0	63.2
標準偏差	22.0	22.7	22.3	22.0	22.7	21.2	24.5	23.1	22.7
総合学科				42.1	35.1	42.7	43.9	44.7	44.9
標準偏差				17.3	16.0	15.9	20.5	19.1	19.5
商業科系	44.4	49.5	47.9	43.6	34.3	40.9	42.9	44.3	43.1
標準偏差	15.5	17.5	16.7	15.3	15.0	14.1	19.0	16.9	16.8
家庭科系	42.7	46.7	48.7	43.7	37.0	40.3	38.9	43.3	41.8
標準偏差	17.2	19.3	20.3	18.4	15.5	15.9	19.7	19.0	18.4
英語科系	76.9	87.5	88.0	77.0	74.5	71.8	78.2	81.1	77.3
標準偏差	17.5	11.1	10.1	15.8	18.5	17.6	20.1	15.0	17.0
工業科系	52.3	54.8	48.4						
標準偏差	16.8	18.7	19.3						
他の学科	44.3	47.2	48.5	42.0	31.1	35.0	37.8	40.1	40.3
標準偏差	18.7	20.3	20.6	20.1	19.4	19.3	21.3	20.5	21.1

(注意1) 平成18年度以前の「総合学科」及び平成19年度以降の「工業科系」は, 「他の学科」に含まれる。

(注意2) 平成21年度については, 約10年前の生徒の学力との比較のため, 平成11年度を中心とした過去の問題を使用した。

(2) 平成24年度 学校平均点の分布状況

[表3] は, 学校平均点の分布状況をまとめたものである。同一学科の学校間で相当の得点差が見られる。なお, 普通科における学校平均点較差(最高点-最低点)は, 74.9点(最高点91.0-最低点16.1)となっている([表4])。

学校平均点の分布状況 [表3]

得点域	-90	-85	-80	-75	-70	-65	-60	-55	-50	-45	-40	-35	-30	-25	-20	-15	-10	-5	合計
全体	2	7	8	9	11	14	9	11	11	11	8	12	8	7	7	4	0	0	139
普通科	2	6	8	9	10	11	6	10	7	6	4	7	5	3	5	3	0	0	102
総合学科	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	5
商業科系	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	2	0	0	0	0	0	0	6
家庭科系	0	0	0	0	0	0	0	1	2	3	2	0	2	1	1	0	0	0	12
英語科系	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
他の学科	0	0	0	0	1	1	1	0	0	1	1	1	0	3	1	1	0	0	11

(注意) 人数10名以下の学校(学科・コース)は含まれていない。

普通科における学校平均点較差(最高点-最低点)の推移 [表4]

年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
得点差	74.3	76.7	76.3	74.0	72.1	72.4	78.1	76.0	74.9

(3) 設問別正答率 (%) (過去との比較)

【表5】は、抽出答案による設問別正答率を年度ごとにまとめたものである。年度により出題内容や難易度が異なるため、単純な数値の比較は困難であるが、今年度は、過年度と比較して設問【3】文法・語法と【8】聞き取りの正答率がやや高く、【1】発音の正答率がやや低いことが分かる。

設問別正答率 (%) の推移 (過去との比較)

【表5】

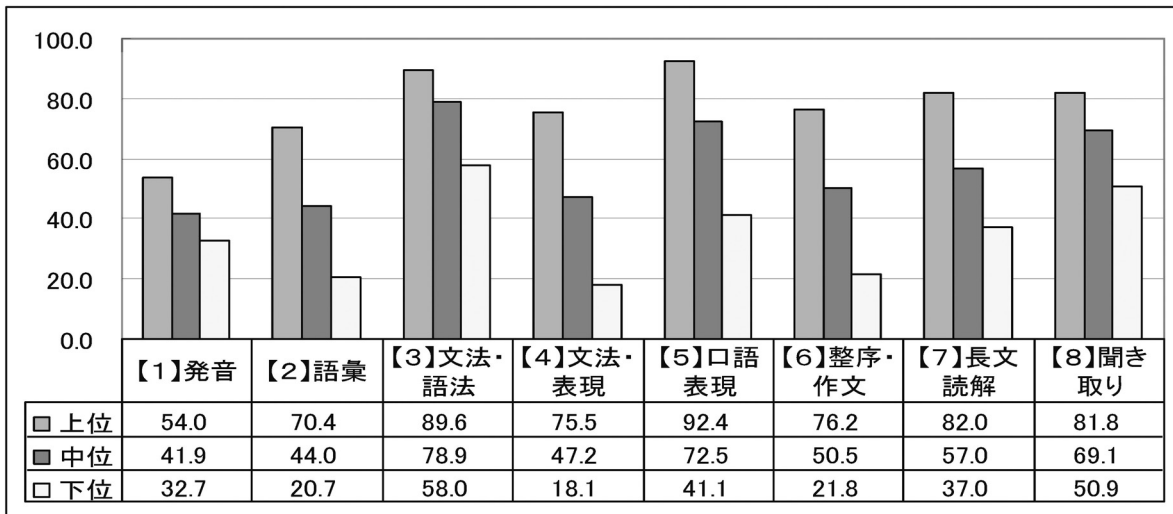
年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
抽出人数	3,407	3,182	3,075	3,108	3,102	3,252	3,158	3,284	3,227
全設問	61.1	65.0	65.6	60.1	54.9	56.6	60.8	61.7	61.1
【1】発音	62.0	60.4	43.6	63.9	54.2	53.3	48.5	65.4	45.2
【2】語彙	47.9	62.6	58.7	59.6	44.5	53.0	54.0	46.4	50.6
【3】文法・語法	70.1	71.6	71.3	57.3	71.1	55.5	67.2	68.8	79.0
【4】文法・表現	58.3	61.5	63.9	54.4	49.4	42.6	66.8	47.9	53.3
【5】口語表現	82.6	86.3	89.9	62.4	67.6	86.4	76.7	70.7	74.4
【6】整序・作文	48.7	62.7	55.9	54.6	49.1	42.8	56.3	65.7	55.6
【7】長文読解	58.0	61.5	65.3	61.5	51.5	54.8	62.3	61.8	63.7
【8】聞き取り	67.6	53.3	79.0	65.7	52.7	72.1	50.6	60.0	70.7

(4) 平成24年度設問別正答率 (上位・中位・下位層の比較)

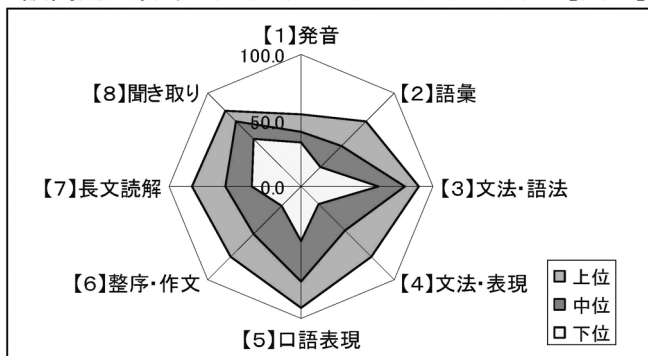
【図1】は、調査校143校(学科・コース)から抽出した3,227名中の学校平均点上位46校(偏差値55以上)に所属する1,441名(上位層)、学校平均点中位47校(偏差値45以上55未満)に所属する1,063名(中位層)及び学校平均点下位50校(偏差値45未満)に所属する723名(下位層)の設問別正答率をグラフにしたものである。

設問別正答率 (%) (上位・中位・下位層の比較)

【図1】



設問別正答率 (%) (レーダーチャート) 【図2】



【図2】は【図1】をレーダーチャートにしたものである。各設問における各層の正答率を見ると、設問【2】語彙、【4】文法・表現、【6】整序・作文で各層の差が大きく、特に下位層の正答率が低い。また、設問【1】発音では、各層いずれも正答率が低くなっている。

6 問題別の考察及び指導上の留意点

(1) 発音問題

出題のねらい：母音及び子音の正しい識別を測る。	
【1】 次の(1)～(5)の語について、下線部の発音が同じものをア～エから一つずつ選び、記号で答えなさい。	
(1) <u>change</u>	[ア character イ chemical ウ chorus エ church]
(2) <u>swim</u>	[ア little イ mind ウ price エ silent]
(3) <u>liked</u>	[ア called イ hoped ウ loved エ visited]
(4) <u>word</u>	[ア course イ forty ウ learn エ park]
(5) <u>wonderful</u>	[ア cross イ front ウ only エ stop]
配点	10点(各2点)
正解	(1) エ (2) ア (3) イ (4) ウ (5) イ

<抽出答案における【1】小問別正答率(%)>

学科・人数	全体	普通科	総合学科	商業科系	家庭科系	英語科系	他の学科
小問	3,227	2,881	124	52	74	16	80
(1) <u>change</u>	45.2	54.5	55.5	42.7	51.9	44.6	41.3
(2) <u>swim</u>		68.3	69.9	56.5	55.8	51.4	50.0
(3) <u>liked</u>		51.8	53.3	41.9	44.2	37.8	30.0
(4) <u>word</u>		24.8	25.3	18.5	21.2	16.2	20.0
(5) <u>wonderful</u>		26.8	26.7	28.2	21.2	32.4	23.8

本年度は、小問(2)、(4)、(5)を母音に関する問題、(1)、(3)を子音に関する問題とした。本問における調査校全体の抽出答案による正答率(以下、調査校全体の正答率)は45.2%であった。

以下、平均点順位が中位にある全日制課程普通科生徒100名の答案(分析答案)を抽出して、小問別に誤答分析を試みた。したがって、分析答案による誤答数は調査校全体の抽出答案による誤答率とは異なる。なお、誤答分析に用いた分析答案は、設問【2】以降も同様の方法で抽出した。

<分析答案による誤答数>

小問	誤答数	記号	発音	各誤答数	小問	誤答数	記号	発音	各誤答数
(1) <u>change</u> [tʃ]	46	ア	[k]	11	(4) <u>word</u> [ɔ:r]	70	ア	[ɔ:r]	10
		イ	[k]	10			イ	[ɔ:r]	7
		ウ	[k]	25			ウ	正答 learn	
		エ	正答 church				エ	[ɑ:r]	53
(2) <u>swim</u> [i]	24	ア	正答 little		(5) <u>wonderful</u> [ʌ]	66	ア	[ɔ:]	24
		イ	[ai]	12			イ	正答 front	
		ウ	[ai]	9			ウ	[ou]	15
		エ	[ai]	3			エ	[ɑ]	27
(3) <u>liked</u> [t]	45	ア	[d]	12					
		イ	正答 hoped						
		ウ	[d]	25					
		エ	[id]	8					

<考察>

小問(1)は、-ch-の発音を問う問題で、調査校全体の正答率は54.5%であった。-ch-の発音は十分には理解されていないと思われる。

小問(2)は、-i-の発音を問う問題で、調査校全体の正答率は68.3%と本問中最も高かった。誤答は分散しており、見出し語を含め、どの語も定着率が高いと考えられる。

小問(3)は、規則動詞の活用-edの発音を問う問題で、調査校全体の正答率は51.8%であった。無

声音の後の -ed- の発音が[t]になることが十分に理解されていないことが原因であると考えられる。

小問(4)は, [ə:r]の発音を問う問題であり, 調査校全体の正答率は24.8%と本問中最も低かった。誤答70例のうち53例が **エ park** であり, [ə:r]と[a:r]の区別ができていないものと思われる。

小問(5)は, -o- の発音を問う問題であり, 調査校全体の正答率は26.8%とかなり低かった。誤答は分散しており, 選択肢の単語の発音が正しく理解できていないと考えられる。

<指導上の留意点>

<問題点>

小問(4), (5)に見られるように, 日本語では「ア」または「オ」と認識されやすい英語の母音の区別(特に[ə:r]と[a:r], [ʌ]と[ɑ])ができていない。

<具体的な指導例>

発音のよく似た語の組み合わせ(ミニマル・ペア)を示し, それぞれの違いを認識させる。

[ə]や[ʌ]はあまり口を大きく開けないが, [ɑ]は口を大きく開けて発音することを指導した上で, 次のようなミニマル・ペアを用いて発音練習させる。また, -ar- というつづりではほとんどの場合[a:r]の発音になることなども説明し, 音とつづりの関係を意識付ける。

【ミニマル・ペアの例】

[ə:r]と[a:r]: hurt – heart, heard – hard, firm – farm など

[ʌ]と[ɑ]: nut – not, hut – hot, rubber – robber など

(2) 語彙問題

出題のねらい: 基本的な語彙が身に付いているかを測る。

【2】 次の(1)~(10)の文中の()内に, 与えられた文字で始まる最も適当な語を一つ書きなさい。

- (1) A panda is a popular (a) among children.
- (2) His father is a doctor and works at that (h).
- (3) What (l) do you speak in Korea?
- (4) (T) is the day of the week after Wednesday.
- (5) If you have any questions, please (r) your hand.
- (6) A: Mom! I'm very (h) now.
B: You have to wait. I'm still cooking.
- (7) A: What are you going to do during the summer (v)?
B: I want to go to the beach.
- (8) A: How was your trip to Canada?
B: It was a lot of fun. I'll never (f) it.
- (9) A: What's (w)? Are you OK?
B: I have a cold.
- (10) A: How often do the trains come?
B: They come (e) ten minutes.

配点: 10点 (各1点)

正解: (1) animal (2) hospital (3) language (4) Thursday (5) raise
(6) hungry (7) vacation (8) forget (9) wrong (10) every

<抽出答案における【2】小問別正答率（％）>

学科・人数 小問	全 体 3,227	普 通 科 2,881	総合学科 124	商業科系 52	家庭科系 74	英語科系 16	他の学科 80	
(1) animal	50.6	48.1	49.6	36.3	34.6	28.4	81.3	31.3
(2) hospital		54.6	57.0	37.1	36.5	24.3	87.5	28.8
(3) language		44.5	47.6	19.4	9.6	5.4	87.5	21.3
(4) Thursday		32.2	34.3	16.1	9.6	5.4	62.5	13.8
(5) raise		29.5	30.9	15.3	19.2	10.8	62.5	17.5
(6) hungry		55.9	58.5	34.7	36.5	25.7	75.0	31.3
(7) vacation		75.7	77.5	63.7	59.6	50.0	100.0	58.8
(8) forget		53.8	56.8	33.1	26.9	17.6	75.0	25.0
(9) wrong		67.4	69.8	54.0	44.2	32.4	100.0	43.8
(10) every		44.2	46.8	19.4	13.5	13.5	87.5	26.3

調査校全体の正答率は50.6%であった。

<過年度類題正答率（％）>

小問	24年度正答率	過年度正答率（出題年度）
(2) hospital	54.6	72.6（18年度） 54.6（2年度）
(3) language	44.5	35.4（22年度） 55.8（20年度） 44.0（15年度）
(4) Thursday	32.2	29.2（3年度）
(5) raise	29.5	26.1（22年度）
(7) vacation	75.7	64.0（17年度）
(9) wrong	67.4	68.6（22年度） 62.6（16年度） 42.6（13年度）
(10) every	44.2	38.2（20年度） 31.3（17年度）

<分析答案による誤答数と主な誤答例>

小問	誤答数	つづりの誤り（数）	その他の誤り（数）	無答
(1) animal	59	1 animol (1)	48 all (9), and (6), at (6) 等	10
(2) hospital	41	3 hospiter (2), houspital (1)	34 him (7), hard (4), house (4) 等	4
(3) language	64	6 langerge (1), langage (1), languge (1), languge (1) 等	44 learn (19), like (9), long (5) 等	14
(4) Thursday	79	6 Thurseday (2), Thuresday (2) Thrthday (1), Thrsheday (1)	72 This (17), There (14), Tuesday (12), Today (8) 等	1
(5) raise	73	14 rase (11), reise (1) 等	51 rise (26), right (10), read (4) 等	8
(6) hungry	49	18 hangry (6), hangly (4) 等	28 happy (8), hard (7), hot (6) 等	3
(7) vacation	21	14 vaceition (2), vaction (2) 等	5 visit (4), view (1)	2
(8) forget	57	3 foget (3)	44 find (6), from (6), fun (5) 等	10
(9) wrong	41	7 worng (4), wlong (1) 等	22 weather (6), warm (4) 等	12
(10) every	71	2 evey (1), evry (1)	44 either (10), each (6), early (5) 等	25

<考察>

小問(1)から(5)は文中の適語補充問題，(6)から(10)は対話文中の適語補充問題となっている。

小問(1) animal の調査校全体の正答率は48.1%であった。誤答59例のうち、「つづりの誤り」はanimolの1例のみで、多くの生徒が文意を理解できず、正答を思い付かなかったようである。

小問(2) hospital の調査校全体の正答率は 54.6%であった。誤答 41 例のうち、「その他の誤り」が 34 例あり、 doctor や works という語から正答を連想することができなかったと思われる。

小問(3) language の調査校全体の正答率は 44.5%であった。誤答 64 例のうち、「その他の誤り」と「無答」を合わせて 58 例あったことから、 language はなじみのない単語であると考えられる。

小問(4) Thursday の調査校全体の正答率は 32.2%であった。日常生活に深く関わっている語にもかかわらず、あまり定着していない。 after Wednesday の意味を理解できず、 Tuesday と混同したと考えられる誤答も目立った。

小問(5) raise の調査校全体の正答率は 29.5%で、本問中最も低かった。誤答 73 例のうち、 rise と答えた例が 26 例で、突出して多かった。 raise はよく耳にする語ではあるが、正しくつづることができず、文意に応じて適切に使い分けることもできないようだ。

小問(6) hungry の調査校全体の正答率は 55.9%であった。「つづりの誤り」が 18 例あったことから、比較的多くの生徒が「お腹がすいている」という状況は理解できたようだ。

小問(7) vacation の調査校全体の正答率は 75.7%で、本問中最も高かった。 vacation という語はよく定着しているようだ。

小問(8) forget の調査校全体の正答率は 53.8%であった。誤答 57 例のうち、「つづりの誤り」は 3 例のみで、「その他の誤り」が多岐にわたっていた。「旅行は本当に楽しかった。決して忘れないだろう」という文意が理解できなかったようだ。

小問(9) wrong の調査校全体の正答率は 67.4%で本問中 2 番目に高かった。 What's wrong? という表現は比較的定着しているようである。

小問(10) every の調査校全体の正答率は 44.2%であった。誤答 71 例のうち、「その他の誤り」が 44 例あり、「無答」も 25 例と多かった。「～おきに」という意味での every は、あまり定着していないと考えられる。

<指導上の留意点>

<問題点>

小問(5)、(8)に見られるように、文脈や対話に応じて適切な語彙を用いて表現することができない。

<具体的な指導例>

具体的な状況と使用語彙を提示し、英文を作らせたり、会話練習をさせたりして、実際に活用させる。

例えば、「手を挙げる」と「太陽が昇る」といった、生徒が使用語彙を誤りやすい状況を提示した上で、“raise, hand” “rise, the sun” という語句を提示し、Raise your hand if you find the answer. や The sun rises in the east. などの文を作らせる。また、状況や使用語彙を変えながら、関連する語彙を増やす。

(3) 文法・語法問題

出題のねらい：機能語の働きと基本的な文法事項の理解度を測る。

【3】 次の(1)～(5)がそれぞれ正しい文になるように、ア～エから最も適当な語(句)を選び、記号で答えなさい。

(1) The children stopped (ア play イ playing ウ to play エ to playing) when their teacher came in.

(2) We couldn't play baseball (ア although イ because ウ but エ so) it rained a lot in the morning.

- (3) Let's meet at 3:00 (ア at イ in ウ on エ to) Sunday afternoon.
- (4) A: (ア Can イ Must ウ Will エ Would) I use a cell phone now?
B: No, you mustn't. You have to be quiet here.
- (5) A: (ア What イ When ウ Which エ Why) do you study English so hard?
B: Well, I want to be a pilot.

配点：10点（各2点）

正解 (1) イ (2) イ (3) ウ (4) ア (5) エ

<抽出答案における【3】小問別正答率（%）>

学科・人数 小問	全体 3,227	普通科 2,881	総合学科 124	商業科系 52	家庭科系 74	英語科系 16	他の学科 80	
(1) playing	79.0	82.7	85.5	64.5	65.4	44.6	81.3	60.0
(2) because		84.8	85.8	79.8	84.6	66.2	100.0	70.0
(3) on		85.9	87.1	78.2	86.5	67.6	100.0	68.8
(4) Can		59.6	59.9	54.8	53.8	56.8	62.5	62.5
(5) Why		81.8	84.1	65.3	61.5	52.7	93.8	62.5

調査校全体の正答率は79.0%であった。

<過年度類題正答率（%）>

小問	24年度正答率	過年度正答率（出題年度）		
(1) stop + 動名詞の用法	82.7	74.4（19年度）		
(2) because の用法	84.8	86.5（12年度）		
(3) on + 曜日の用法	85.9	83.7（21年度）	89.8（15年度）	89.7（12年度）
(4) 助動詞 can の用法	59.6	45.2（19年度）		
(5) 疑問詞 why の用法	81.8	54.9（22年度）	56.7（19年度）	47.3（15年度）

<分析答案による誤答数>

小問	誤答数	ア	イ	ウ	エ	無答
(1) playing	20	2	正答	12	6	0
(2) because	19	2	正答	10	6	1
(3) on	11	2	5	正答	4	0
(4) Can	44	正答	37	2	5	0
(5) Why	22	15	1	6	正答	0

<考察>

小問(1)は、動詞の目的語となる playing を選ぶ問題である。調査校全体の正答率は82.7%と高かった。これは、stop + 動名詞の用法が十分理解されているためと思われる。

小問(2)は、接続詞 because を選ぶ問題である。調査校全体の正答率は84.8%と非常に高かった。「雨が降ったので野球ができなかった」という文意が理解しやすかったと思われる。

小問(3)は、曜日とともに使われる前置詞 on を選ぶ問題である。調査校全体の正答率は85.9%と本問中最も高かった。曜日とともに使われる on の用法については、よく理解されている。

小問(4)は、助動詞 Can を選ぶ問題である。調査校全体の正答率は59.6%と本問中最も低かった。誤答44例のうち37例がイ Must であった。これは、Bの応答のなかに mustn't とあるため、文脈を理解せずに選んでしまったと思われる。

小問(5)は、疑問詞 Why を選ぶ問題である。調査校全体の正答率は81.8%とよくできていた。平成22年度も Why を選ぶ問題が出題されたが、文意が読み取りにくく、正答率は54.9%と低かった。それに対して、今年度はBの応答である I want to be a pilot から理由を尋ねる問題だと分かりやすか

ったと考えられる。

<指導上の留意点>

<問題点>

小問(4)に見られるように、助動詞を使った疑問文とその答え方が十分理解できていない。

<具体的な指導例>

助動詞を使った疑問文には、内容に応じた受け答えの文（肯定文と否定文）を提示する。さらに、具体的な場面や状況を設定し、言語活動を通してその定着を図ることが必要である。

【図書館で本を借りる場面の例】

A: Can I borrow this book from the library?

B: (肯定の受け答え) Sure.

(否定の受け答え) No, you mustn't. You can just read it here.

(4) 文法・表現問題

出題のねらい：基本的な文法事項の運用能力を測る。

【4】 次の(1)～(5)の**ア**と**イ**の文の内容がほぼ同じになるように、()内に最も適当な語を一つずつ書きなさい。

(1) **ア** When we heard the news, we were sad.

イ We were sad () () the news.

(2) **ア** He is a math teacher. He became a teacher twenty years ago.

イ He () () a math teacher for twenty years.

(3) **ア** Ben took this picture.

イ This picture () () by Ben.

(4) **ア** Tom can play tennis better than Bill.

イ Bill can't play tennis as () () Tom.

(5) **ア** The man is my father. He is talking with the boys.

イ The () () with the boys is my father.

配点：15点（各3点，部分点なし）

正解 (1) (to)(hear) (2) (has)(been) (3) (was)(taken)

(4) (well)(as) (5) (man)(talking)

<抽出答案における【4】小問別正答率(%)>

学科・人数	全 体	普 通 科	総合学科	商業科系	家庭科系	英語科系	他の学科
小問	3,227	2,881	124	52	74	16	80
(1) to hear	53.3	41.6	44.1	21.0	11.5	14.9	21.3
(2) has been		38.6	41.7	14.5	7.7	2.7	13.8
(3) was taken		55.6	59.3	29.8	19.2	12.2	20.0
(4) well as		58.8	61.9	40.3	34.6	17.6	26.3
(5) man talking		72.0	73.7	56.5	59.6	52.7	57.5

調査校全体の正答率は53.3%であった。

<過年度類題正答率 (%)>

小問	24年度 正答率	過年度正答率 (出題年度)
(1) 副詞節→不定詞 When we heard the news, ~. → ~ (to)(hear) the news.	41.6	49.9 (16年度) ~ glad when I heard the news. → ~ glad (to)(hear) the news. 32.6 (13年度) I met her, so I was very happy. → I was very happy (to)(meet) her.
(2) 現在完了	38.6	49.2 (22年度) My father (has)(been) sick since ~. 54.7 (10年度) My father (has)(been) sick for three days.
(3) 能動態→受動態	55.6	50.6 (18年度) This picture (was)(taken) by my father. 50.3 (13年度) Our picture (was)(taken) by Mary.
(5) 現在分詞の後置修飾 The (man)(talking) with the boys is ~.	72.0	39.3 (6年度) I have a friend (living) in Hokkaido.

<分析答案による誤答数と主な誤答例>

小問	誤答数	誤答例 (数)	無答
(1) to hear	57	when heard (20), to heard / here / read (12), because hear / heard (6), that heard (2), made me (2), その他 (13)	2
(2) has been	73	have / has become (13), has / had become (12), is / was became (7), have / had been (3), has / had be (3), was been (2), その他 (29)	4
(3) was taken	48	is taken (14), was took (10), is took (6), were taken (2), which taken (2), その他 (14)	0
(4) well as	49	better as (20), good as (19), not as (3), play as (2), その他 (4)	1
(5) man talking	16	man taking (2), talking man (2), man who (2), man talk / talked (2), その他 (6)	2

<考察>

小問(1)は、感情の原因を表す to 不定詞を使って表現する問題である。調査校全体の正答率は41.6%であった。誤答57例のうち45例は to 不定詞を用いておらず、不定詞のこの用法は定着していないと思われる。

小問(2)は、ある状態が続いていることを現在完了を用いて表現する問題である。調査校全体の正答率は38.6%と本問中最も低かった。多くの生徒は完了形を用いて表現しようとしているが、have / has / had の区別ができていないことによる誤答が目立った。また、文の内容を捉えて been を用いることができず、become や became を用いた誤答も多かった。

小問(3)は、受動態を用いて表現する問題である。調査校全体の正答率は55.6%であった。時制の誤りや、過去分詞 taken を適切に使用していない誤答が目立った。

小問(4)は、否定語を伴った原級比較に関する問題である。調査校全体の正答率は58.8%であった。well-better-best の活用が定着していないと思われる誤答も見られた。

小問(5)は、現在分詞の後置修飾に関する問題である。調査校全体の正答率は72.0%と本問中最も高く、現在分詞のこの用法はよく定着しているようだ。

<指導上の留意点>

<問題点>

小問(1), (2), (3)に見られるように, 場面に応じて適切な動詞や文構造を用いることができない。

<具体的な指導例>

同じ意味を表す2種類の例文を提示し, 文構造を確認する。その上で, 生徒自身でスキットを作らせ, ペアワークをさせながら表現を身に付けさせる。

【不定詞を用いたスキットの例】

A: I was surprised when I heard that he got a gold medal at the Olympic Games.

B: You mean you were surprised to hear the news of the Olympic games, right?

【現在完了を用いたスキットの例】

A: He is a doctor. He became a doctor 20 years ago.

B: You mean he has been a doctor for 20 years, right?

A: Yes, that's right.

(5) 口語表現問題

出題のねらい: 基本的な口語表現の理解度を測る。

【5】 次の英文は Mari と Goro の対話です。(1)~(5)に入る最も適当な表現を下のア~コから選び, 記号で答えなさい。ただし, 各表現は一度しか使えません。

Mari: Hi, Goro. (1)

Goro: I'll go to the river. I like catching fish there.

Mari: Oh, I'll also go there.

Goro: Really? (2)

Mari: No, I won't. I'll clean the river. A lot of people will go there to work together. How about joining us?

Goro: Oh, I'm sorry. (3)

Mari: I know you like it. But you should think about the fish. (4) Why don't you go and clean the river for them?

Goro: I see. I'll join you. (5)

Mari: About seven. Can you come to my house?

Goro: All right. See you tomorrow.

- | | | |
|-----------------------------------|-----------------------------------|--------------------------------|
| ア Catching fish is more exciting. | イ They need clean water. | |
| ウ Where did you go yesterday? | エ I'm glad to go with you. | オ You went to clean the river. |
| カ When will we meet? | キ What is your plan for tomorrow? | |
| ク Will you catch fish, too? | ケ How long will you stay there? | コ They eat enough food. |

配点: 10点 (各2点)

正解 (1) キ (2) ク (3) ア (4) イ (5) カ

<抽出答案における【5】小問別正答率(%)>

学科・人数	全 体	普 通 科	総合学科	商業科系	家庭科系	英語科系	他の学科
小問	3,227	2,881	124	52	74	16	80
(1) What is your plan for tomorrow?	79.4	81.2	64.5	73.1	54.1	87.5	65.0
(2) Will you catch fish, too?	85.5	87.0	79.0	71.2	67.6	100.0	66.3
(3) Catching fish is more exciting.	74.4	68.8	71.6	48.4	44.2	31.1	93.8
(4) They need clean water.	69.4	71.8	49.2	51.9	40.5	100.0	46.3
(5) When will we meet?	68.8	71.8	47.6	53.8	27.0	93.8	37.5

調査校全体の正答率は 74.4%であった。

<分析答案による誤答数>

小問	誤答数	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	無答
(1) What is your plan for tomorrow?	14	0	0	8	0	1	0	正答	1	4	0	0
(2) Will you catch fish, too?	8	0	0	0	4	1	0	1	正答	1	1	0
(3) Catching fish is more exciting.	30	正答	3	1	9	8	0	0	1	0	6	2
(4) They need clean water.	36	9	正答	0	8	8	2	1	0	0	6	2
(5) When will we meet?	32	0	0	1	0	2	正答	0	0	27	1	1

<考察>

小問(1)は、Mari が Goro に翌日の予定を尋ねる場面である。調査校全体の正答率は 79.4%とよくできていた。直後の I'll go to the river. から容易に判断できたようである。

小問(2)は、「自分も川に行く」と言う Mari に対して、Goro が「君も魚を捕まえに行くのか」と尋ねる場面である。調査校全体の正答率は 85.5%と本問中最も高かった。文脈から正答を選びやすかったと考えられる。

小問(3)は、川の掃除に加わらないかと誘う Mari に対して、Goro が「魚を捕まえる方がおもしろい」と言う場面である。調査校全体の正答率は 68.8%であり、誤答は分散していた。前後のせりふと結び付けることができなかつたと考えられる。

小問(4)は、Mari が「魚たちもきれいな水が必要なのよ」と Goro に伝え、「川の掃除に行こう」ともう一度誘う場面である。調査校全体の正答率は 69.4%であり、誤答は分散していた。直前の But you should think about the fish. の文意が分からなかつたためであると思われる。

小問(5)は、川の掃除に行くことを決めた Goro が、Mari に待ち合わせの時刻を相談する場面である。調査校全体の正答率は 68.8%であった。誤答 32 例のうち 27 例が ケ How long will you stay there? であった。後に続く Mari の About seven. が、時間の長さを表すと考えたためであろう。

<指導上の留意点>

<問題点>

基本的な語句を使用した会話表現や大まかな対話の展開については理解できているが、小問(3)、(4)、(5)に見られるように、会話の流れに応じて適切な表現を用いるのが苦手な生徒が見られる。

<具体的な指導例>

様々な場面や状況を設定し、言語の働き（誘う・説明する・主張する等）を意識させながら言語活動を行うことにより、基本的な会話表現を身に付けさせる。その上で省略表現などを理解させ、それらを実際のコミュニケーション活動において使用する機会を設ける。

【会話の例】

A: When will we meet?

B: About two.

A: You mean we will meet at about two o'clock, right?

B: Yes, that's right.

(6) 整序・作文問題

出題のねらい：単語を並べ替えて正しい英文を構成する力，基本的な英語表現能力を測る。

【6】 次の(1)～(3)の日本語の意味を表すように，下に与えられた語を全部用いて，英文を作りなさい。また，(4)は下線部(A)と(B)の日本語を英文に直しなさい。

- (1) 毎日朝食を食べることは大切だ。
[breakfast / day / every / have / important / is / it / to]
- (2) スキーはスケートよりも難しい。
[difficult / is / more / skating / skiing / than]
- (3) これは私たちが幸せにしてくれる映画です。
[a / happy / is / makes / movie / this / us / which]
- (4) 「(A) あなたのお気に入りの本は何ですか。」
「ハリーポッターのシリーズです。(B) あなたはそれを読んだことがありますか。」
「いいえありません。今度貸してもらえますか。」

配点 15点 (各3点 部分点なし)

- 正答 (1) It is important to have breakfast every day.
(2) Skiing is more difficult than skating.
(3) This is a movie which makes us happy.
(4) (A) What is your favorite book?
(B) Have you [ever] read them?

<抽出答案における【6】小問別正答率(%)>

学科・人数	全体	普通科	総合学科	商業科系	家庭科系	英語科系	他の学科	
小問	3,227	2,881	124	52	74	16	80	
(1)	55.6	76.0	78.7	58.1	55.8	35.1	100.0	52.5
(2)		74.4	77.1	57.3	57.7	44.6	81.3	43.8
(3)		66.3	69.0	47.6	42.3	35.1	93.8	33.8
(4)		25.7	27.7	7.3	5.8	4.1	68.8	6.3
(A)		35.4	38.2	10.5	7.7	6.8	75.0	10.0
(B)								

小問(1)～(3)を整序問題，小問(4)を日本語の内容を英語で表現させる形式とした。調査校全体の正答率は55.6%であった。

<過年度類題正答率(%)>

小問	24年度正答率	過年度正答率(出題年度)
(1) 形式主語構文 It is ~ to 不定詞	76.0	65.7 (22年度) It was easy for me to answer the question. 76.3 (19年度) It is easy for me to learn English. 66.1 (15年度) It is important for you to learn history.
(3) 関係代名詞 第5文型 make + O + happy	66.3	65.7 (20年度) That is the bus which goes to the station. 66.1 (15年度) This is the train which leaves at seven. 78.7 (23年度) The news made me very sad. 75.1 (21年度) These presents made her happy.
(4) (A) 疑問詞 What ~ ?	25.7	30.7 (18年度) What is your favorite music?
(4) (B) 現在完了 (経験)	35.4	72.8 (22年度) Have you ever been to Okinawa? 56.6 (15年度) Have you ever read this book?

<分析答案による誤答数>

小問	分析答案における誤答数
(1)	23
(2)	15
(3)	34
(4) (A)	83
(4) (B)	83

<考察>

小問(1)は、形式主語構文 It is ~ to 不定詞を理解しているかを確認する問題である。調査校全体の正答率は 76.0%と高かった。

誤答例 It is important have to breakfast every day.	8 例
--	-----

誤答 23 例のうち 8 例が to have の不定詞を用いる部分が have to となっており、不定詞の形ができていない誤答が多かった。

小問(2)は、動名詞と比較級の用法の理解度を確認する問題である。調査校全体の正答率は 74.4%と高かった。

誤答例 Skiing is difficult more than skating.	8 例
--	-----

誤答 15 例のうち 8 例が more を正しい位置で用いることができなかった。

小問(3)は、関係代名詞 which を用いた後置修飾と、第 5 文型を作る動詞 make の用法の理解度を確認する問題である。調査校全体の正答率は 66.3%であった。

誤答例 This is movie which makes us a happy.	9 例
---	-----

誤答 34 例のうち 14 例は movie which makes の形が、17 例は makes us happy の形ができており、関係代名詞の後置修飾と第 5 文型をつくる make の用法はある程度理解されているように思われる。

小問(4) (A) は、疑問詞 what を用いて好きな本を尋ねる問題である。調査校全体の正答率は 25.7%と本問中最も低かった。

誤答例 ① What do you favorite book(s)?	18 例
② What are you favorite book(s)?	14 例

誤答例に見られるように疑問詞 what は答えられても動詞や代名詞を適切に用いていない誤答が多かった。

小問(4) (B) は、経験を尋ねる文を作ることができるかを確認する問題である。調査校全体の正答率は 35.4%と低かった。

誤答例 ① Have you (ever) read [one / that / there / their / it]?	42 例
② Do / Did you read ~ ?	19 例

誤答 83 例のうち 42 例が Have you read の形はできていても「それらを」の部分で代名詞で適切に表すことができなかった。

<指導上の留意点>

<問題点>

小問(4)のように、会話でよく用いられる表現及び動詞や代名詞の基本的な使い方が定着していない。

<具体的な指導例>

定着させたい表現をペアワークの中で生徒に使わせる。さらに、パートナーから得た情報を他の生徒に紹介する英文を作成して発表させる。

【ペアワークの例】

A: What kind of music do you like, Yoshio?

B: I like British rock.

A: You do? I don't know it very much. Who's your favorite musician?

B: I like Beatles. It's a British rock band. Have you ever listened to their songs?

A: No, not yet. May I borrow your CDs next time?

B: Sure.

【発表の例】

I talked with Yoshio about music. He likes British rock. His favorite rock group is Beatles.

I don't know them very well. So I'd like to borrow some CDs from him and listen to them.

(7) 長文読解問題

出題のねらい：比較的長い英文を読み取る力を測る。

【7】次の英文を読んで、あとの問いに答えなさい。

Ken wanted to play a trick on Yoshio because it was April Fools' Day. He said, "Yoshio, do you know that the shop near the station is giving some money? You will get 20 yen for a bottle. (1)If you have bottles around the house, you should take them to the shop." Yoshio always wanted more money, so he didn't remember what day it was. When he went home, he asked his mother to (2). Yoshio got some of them from her and went to the shop.

An old woman was working at the shop. "May I help you?" she said to Yoshio. "I hear you are giving 20 yen for a bottle. Well, I have ten bottles. That will be 200 yen, please," Yoshio said to the woman. She thought (3)his story was strange, but soon remembered it was April Fools' Day. She said to Yoshio, "I think someone played a trick on you. Today is April 1."

Yoshio was very angry. But then he had (4)a good idea. He quickly went to Ken's house. When Ken opened the door, Yoshio was smiling. Ken couldn't understand why Yoshio looked so (5). "Did you go to the shop near the station?" Ken asked.

Yoshio answered, "Oh, yes. Of course. But, Ken, you were wrong. That shop is giving only 10 yen for a bottle, not 20 yen. I got 100 yen for ten bottles, anyway. Thank you very much." Yoshio smiled again and went to his house.

After Yoshio went home, Ken began to collect bottles in his house. He also visited his grandmother's house to get bottles. "I'll bring them to the community center for recycling," he said to her. Then, he asked his friends for old bottles. In the evening, he got a lot of old bottles.

When Ken and his father went there, the old woman at the shop was surprised. "We have 400 bottles for you. That will be (6), please," Ken said to the woman. "You, too! I know (7)someone who enjoyed April Fools' Day with his friend," the woman said. And then Ken remembered what day it was.

(注) play a trick on ～「～にいたづらをする」 April Fools' Day 「エイプリル・フール」
angry 「怒って」 recycling 「リサイクル」

問1 下線部(1)のようにKenが言った理由として最も適当なものを下から選び、記号で答えなさい。

- ア 駅の近くの店に古いビンを持って行くと、20円もらえるから
- イ Yoshioにいたづらをしようと思ったから
- ウ Yoshioが古いビンを集めていることを知っていたから
- エ Yoshioにお金をもうけさせようと思ったから

- 問2 空所(2)に入る表現として最も適当なものを下から選び、記号で答えなさい。
 ア collect all old bottles in the house
 イ give him more money
 ウ go to the shop near the station
 エ take all old bottles to the shop near the station
- 問3 下線部(3)の具体的な内容として最も適当なものを下から選び、記号で答えなさい。
 ア Yoshio が古いビンを欲しがっているということ
 イ 駅の近くの店の物を安く買えるということ
 ウ 古いビンとお金を交換してくれるということ
 エ Yoshio が Ken にだまされているということ
- 問4 下線部(4)の内容として最も適当なものを下から選び、記号で答えなさい。
 ア Yoshio plays a trick on Ken, too.
 イ Yoshio goes to Ken's house to collect old bottles.
 ウ Yoshio says to Ken, "Thank you."
 エ Yoshio tells Ken that the shop doesn't give any money for old bottles.
- 問5 空所(5)に入る語として最も適当なものを下から選び、記号で答えなさい。
 ア frightened イ happy ウ sad エ surprised
- 問6 空所(6)に入る語句として最も適当なものを下から選び、記号で答えなさい。
 ア 800 yen イ 2,000 yen ウ 4,000 yen エ 8,000 yen
- 問7 下線部(7)は誰のことを指しているか。最も適当なものを下から選び、記号で答えなさい。
 ア Ken イ Ken's father ウ the old woman エ Yoshio
- 問8 Then he asked his father to carry them to the shop by truck. の入る場所として最も適当なものを下から選び、記号で答えなさい。
 ア ア イ イ ウ ウ エ エ
- 問9 本文の内容と一致するものを下から二つ選び、記号で答えなさい。
 ア A shop near the station was giving money for old bottles.
 イ Yoshio didn't know that it was April Fools' Day when he heard Ken's story.
 ウ The old woman at the shop collected old bottles for Yoshio.
 エ Yoshio got only 100 yen for old bottles at the shop.
 オ Ken believed that Yoshio got some money at the shop.
 カ Yoshio went to his grandmother's house to collect old bottles.
 キ Ken's friends brought old bottles to the community center.

配点：20点（各2点，問9は各2点）

正解 問1 イ 問2 ア 問3 ウ 問4 ア 問5 イ
 問6 ウ 問7 エ 問8 エ 問9 イ，オ

<抽出答案における【7】小問別正答率（%）>

学科・人数 小問	全体 3,227	普通科 2,881	総合学科 124	商業科系 52	家庭科系 74	英語科系 16	他の学科 80	
問1	63.7	72.9	75.3	50.8	57.7	44.6	93.8	53.8
問2		43.3	45.3	22.6	30.8	23.0	87.5	23.8
問3		63.2	65.7	42.7	42.3	39.2	81.3	35.0
問4		65.8	68.0	51.6	53.8	32.4	87.5	43.8
問5		79.4	81.3	66.9	69.2	43.2	100.0	67.5
問6		65.0	67.3	50.0	46.2	32.4	87.5	41.3
問7		60.5	62.3	49.2	51.9	36.5	68.8	37.5
問8		55.7	58.2	34.7	42.3	21.6	93.8	32.5
問9		イ	69.8	71.7	55.6	51.9	44.6	93.8
	オ	61.1	63.3	45.2	38.5	27.0	87.5	46.3

調査校全体の正答率は 63.7%であった。

<分析答案による誤答数>

小問	誤答数	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	無答
問 1	19	13	正答	4	2				0
問 2	67	正答	2	19	44				2
問 3	38	3	4	正答	31				0
問 4	31	正答	9	12	10				0
問 5	13	4	正答	2	6				1
問 6	24	6	5	正答	12				1
問 7	37	23	4	7	正答				3
問 8	38	4	11	20	正答				3
問 9	65	9	正答	6	9	正答	15	12	14

<考察>

問 1 は、Ken が If you have bottles around the house, you should take them to the shop. とやった理由を問う問題である。調査校全体の正答率は 72.9%と高かった。エイプリル・フールの日に Yoshio にいたずらをしようとした Ken の意図は、おおむね理解できているようである。

問 2 は、Yoshio が母親に依頼したことの内容を問う問題である。調査校全体の正答率は 43.3%と本問中最も低かった。誤答 67 例のうち、エ take all old bottles to the shop near the station を選んだ誤答が 44 例と非常に多かった。Yoshio got some of them from her and went to the shop. という直後の文と関連付けて理解できなかつたと考えられる。

問 3 は、his story の具体的な内容を問う問題である。調査校全体の正答率は 63.2%であった。誤答 38 例のうち、エ「Yoshio が Ken にだまされているということ」が 31 例と大半を占めていた。これらは、his story が文全体の内容を指すものと捉えてしまい、直前の Yoshio の言葉の内容だけを指していることに気付かなかつたためであろう。

問 4 は、a good idea の具体的な内容を問う問題である。調査校全体の正答率は 65.8%であった。誤答は分散しており、Yoshio が Ken にいたずらをやり返そうと思いついた場面であることを読み取れなかつたと思われる。

問 5 は、Ken にとっては不可解だつた Yoshio の表情を問う問題である。調査校全体の正答率は 79.4%と本問中最も高かった。直前に Yoshio was smiling. とあるため、答えやすかつたのであろう。

問 6 は、Ken が手に入れようとした金額を問う問題である。調査校全体の正答率は 65.0%であった。誤答 24 例のうち、エ 8,000 yen が 12 例と半数を占めていた。That shop is giving only 10 yen for a bottle, not 20 yen. という文に着目せず、一本 20 円と考えたためであろう。

問 7 は、someone が具体的に誰を指すかを問う問題である。調査校全体の正答率は 60.5%であった。誤答 37 例のうち、ア Ken を選んだ誤答が 23 例と半数以上を占めていた。これらは、「友達とエイプリル・フールを楽しんだ誰か」に当たる人物が、それ以前に店を訪れていた Yoshio であると気付かなかつたためと思われる。

問 8 は、Then he asked his father to carry them to the shop by truck. を本文中の適切な位置に入れる問題である。調査校全体の正答率は 55.7%であった。誤答 38 例のうち、ウ を選んだ誤答が 20 例と半数を占めていた。これは、挿入文の them が古いビンを指すことは分かつたものの、エ の直後

の When Ken and his father went there, を手がかりにして答えることができなかつたためと考えられる。

問9は、本文の内容に一致するものを選択する問題である。調査校全体の正答率は、イが 69.8%、オが 61.1%であった。誤答は分散しており、話の展開を考慮に入れて文意を正しく理解できなかったのであろう。

<指導上の留意点>

<問題点>

問2, 8に見られるように、登場人物の意図や行動などを、話の展開を考慮に入れて正確に捉えられない。

<具体的な指導例>

英文を読ませた後で、場面ごとに内容を表にまとめさせ、各場面における登場人物の気持ちをグループやペアで話し合わせる。その上で、聞き手が理解しやすいように要点を整理して口頭で伝える練習をさせる。また、話の展開を把握する上で鍵となる内容を正しく理解しているか確認するために Q & A などの活動を行わせる。

(8) 聞き取り問題

出題のねらい：英語の聞き取りによる理解度を測る。

【8】 この問題は、先生または放送の指示に従い、正しいものには○、そうでないものには×を付けなさい。正しい答えはそれぞれ一つしかありません。

Mike: Hi, Kate!

Kate: Hi, Mike. Have you heard of the new student?

Mike: What? Will the new student come to our school?

Kate: Yes. His name is Yuki. He is from Japan. He will come to our class next month.

Mike: Really? How did you get that news?

Kate: Yesterday I got an e-mail from Japan. Yuki is going to stay with my family for a year. We will be his host family.

Mike: Wow, that sounds nice! What do you know about him?

Kate: He is a high school student. He is a member of the softball club. He likes to cook and play the piano.

Mike: Um, is Yuki a girl? Or a boy? Have you seen the picture?

Kate: No, not yet. When I read the e-mail, I thought Yuki was a boy's name. But now I don't know....

Mike: Then, I think our teacher, Mr. Brown, knows about Yuki. How about asking him? We also have to talk about a welcome party....

Kate: That's a good idea. Let's go now.

Mike: OK.

Question 1 When will the new student come to school?

- (a) Tomorrow.
- (b) Next week.
- (c) Next month.
- (d) Next year.

- Question 2 Who is a member of the host family?
 (a) Kate is.
 (b) Mike is.
 (c) Mr. Brown is.
 (d) Yuki is.
- Question 3 What does Yuki enjoy?
 (a) Cooking and playing the guitar.
 (b) Cooking and playing the piano.
 (c) Playing softball and taking pictures.
 (d) Playing baseball and taking pictures.
- Question 4 Has Kate seen the picture of the new student?
 (a) Yes, she did.
 (b) No, she didn't.
 (c) Yes, she has.
 (d) No, she hasn't.
- Question 5 What did Kate think when she read the e-mail?
 (a) She thought Yuki was a girl.
 (b) She thought Yuki was a boy.
 (c) She thought she had to send her picture to Yuki.
 (d) She thought Yuki was a junior high school student.

配点 10点 (各2点)

正答 Question 1 a (×) b (×) c (○) d (×) Question 2 a (○) b (×) c (×) d (×)
 Question 3 a (×) b (○) c (×) d (×) Question 4 a (×) b (×) c (×) d (○)
 Question 5 a (×) b (○) c (×) d (×)

本問は、会話文を聞いて、その内容をどの程度聞き取れたかを確認する問題である。問題を、「会話文→質問→会話文→質問→解答選択肢」の順で提示した。

本年度の内容は、同級生である Mike と Kate が、来月日本からやって来る留学生について話している会話である。問題文の語数は164語であり、昨年度の142語より長くなっている。質問は、Yes または No で答える疑問文を1問 (Question 4) と疑問詞を使った疑問文を4問 (Questions 1, 2, 3, 5) とした。読みの速さは、例年同様、話し言葉の自然な速さとし、解答は、全ての選択肢に○または×を付けさせる形式とした。本問の調査校全体の正答率は70.7%であった。

<抽出答案における【8】小問別正答率(%)>

学科・人数 小問	全 体 3,227	普 通 科 2,881	総合学科 124	商業科系 52	家庭科系 74	英語科系 16	他の学科 80	
Question 1	70.7	86.1	86.6	86.3	78.8	73.0	100.0	80.0
Question 2		42.7	43.7	37.1	32.7	31.1	56.3	31.3
Question 3		86.8	88.2	75.8	78.8	73.0	100.0	70.0
Question 4		67.7	69.5	53.2	51.9	47.3	93.8	50.0
Question 5		70.3	71.4	58.9	65.4	52.7	87.5	67.5

<分析答案による誤答数>

小問	誤答数	(a)	(b)	(c)	(d)	無答
Question 1	14	3	9	正答	1	1
Question 2	67	正答	6	10	50	1
Question 3	13	2	正答	9	1	1
Question 4	38	11	6	20	正答	1
Question 5	31	10	正答	9	11	1

<考察>

Question 1 は、「留学生がいつ来校するか」を問うものである。調査校全体の正答率は 86.1%とかなり高かった。Kate の発言の中で、 He will come to our class next month. とあるため、聞き取りやすかったようだ。

Question 2 は、「留学生のホストファミリーの一員であるのは誰か」を問うものである。調査校全体の正答率は 42.7%と本問中最も低かった。誤答 67 例のうち、(d) Yuki is. (50 例) が特に多かった。これは、質問文を正確に理解していなかったためと思われる。また、Kate の Yuki is going to stay with my family for a year. We will be his host family. という発言の中の、my family や We が Kate の家族であると正確に理解できなかったことも原因であろう。

Question 3 は、「Yuki の楽しみは何か」を問うものである。調査校全体の正答率は 86.8%と本問中最も高かった。会話の中で、Kate が He is a member of the softball club. He likes to cook and play the piano. と言っているので、容易に理解できたようだ。

Question 4 は、「Kate は留学生の写真を既に見たのか」を問うものである。調査校全体の正答率は 67.7%であった。誤答 38 例のうち 20 例が、(c) Yes, she has. であった。Mike の Have you seen the picture? という問いに対して、Kate は No, not yet. と答えており、これが She hasn't seen the picture yet. という内容を表していることに気付かなかったためであると考えられる。

Question 5 は、「メールを読んだ時に Kate がどう思ったか」を問うものである。調査校全体の正答率は 70.3%とおおむねよくできていた。これは会話中で Kate が When I read the e-mail, I thought Yuki was a boy's name. と言っていることや、Yuki を指すのに he という語を用いていることから、答えやすかったと思われる。

<指導上の留意点>

<問題点>

Question 2, 4 のように、聞き取った会話の内容を整理して理解することができない。

<具体的な指導例>

本問のようなまとまりのある英文を、スクリプトを渡さずに聞かせ、聞き取った内容を整理し、メモを取らせる。そのメモの内容を手がかりに以下のような質問に答えさせ、英文の内容理解を深めさせる。ペアやグループで答えを書かせたり、会話内容について意見交換や発表をさせたりするとよい。

【内容理解を深めさせる質問の例】

Who is Yuki? / Why did Kate get an e-mail from Japan? / Who is Mr. Brown?

What will Mike and Kate do next? / Do you think Yuki is a boy or a girl? Why do you think so?